

□本號日繪『町のスケッチ』はワットマンハツ切大にして、神田秋葉原附近より駿河臺方向を見たる圖にて研究所九月例會の受賞畫に御座候。

□中繪原色版『ヴェニス』の朝は、ラスキン氏の稀なる畫の一にして、氏の山岳論と對比して見る時は意味一層の深きを加へ可申候。

□石版『泊り船』は、越後出雲崎に於けるスケッチの斷片に御座候。

□近來本誌の愛讀者増加し、毎號月末には品切と相成候につき、前金切の諸君は、可相成次號發行前に御拂込被下度候。再版は挿繪の都合上到底不可能につき、一度御求め損じに相成候へば、再び容易に手に入げがたき事と御承知有之度候。

□會友諸君にして、直接『みづゑ』御購讀なき御方有之候、右は規定にも違反致し居、且割引券其他御配布申上候便宜も無之候故、至急直接購讀の御手續なし下されたく候。

□會友諸君にして作品返送料を送られさる方あり、右は必ず一々御送り下されたく候、なほ開き封の中へ、郵券を入るゝことは規則違反と御承知ありたく候。

□會友徽章は、製造元の都合により當分御頒ち致兼候、就ては徽章代御拂込の方は『みづゑ』誌代に相廻し候間御承知置下されたく、出來の上は改めて御報告可申上候。

□『問に答ふ』欄に、質問を寄せらるゝ諸君のうちには、既に一二月以前に答のあるものを問はれ、又は自己が僅かの勞力にて解かるべきものを態々問はるゝもあり、元來此欄は、重に水彩畫の技術方面の質問に答ふべく設けしもの故、それ以外のことはなるべく差扣られたく、たゞ一個人のみにて、一般に何等の利益なしと認めしものは御答なきぬことも可有之候。

□また各學校の規則等を問はるゝ人あれど、是等は直接郵券を送つて、其所要の學校より規則を取寄せらるゝ方が、早くして且利益なるべく候、また誌上匿名

の筆者の本名を問はるゝ人あり、これ等は御答なきがたきものと御承知ありたく候。

□『讀者の領分』は、其名の如く諸君の自由で使用するに任すべく候へ共、これとて可相成廣く益ある様に致し度く、『誰某さんハガキは着きましたか』の如きは、爾來御免を蒙り度候。

□『みづゑ』第一より二十一迄及び二十九、五十、五十二、三、四、五は品切に御座候。

## 近 事

△日本水彩畫會研究所九月例會は二十一日開會、出品三百點、何れも夏期休暇中熱心研究になりしものにて佳作頗る多くこの研究所創立以來の盛會なりし。批評は石井、磯部、河合、岡、永地、大下諸氏によつて試みられ、受賞者は赤城泰舒相田寅彦、望月省三の三氏にして、他に松山忠三、瀧澤靜雄諸氏の作にも優秀なるものありし。批評終つて、岡氏及石井氏の講話あり、薄暮散會したり。

△日本水彩畫會研究所程ヶ谷支部は、現在會員十八名に達し、此上増加ありては充分の授業出來難きにより、缺員ある迄入會を謝絶すべしとの議あり。九月の如きは、批評を乞ふべく持よりし作品百五十余點に達したりと。

△長野縣飯山町にありし素絢會は、今回日本水彩畫會支部設立と共に散解し、會員は一切支部に移れりといふ。

△卷尾廣告にある通り、日本水彩畫會京都支部にては、本月第一日曜日發會式を舉行すべしといふ。

△日本水彩畫會十月例會は、二十四日午後より開會、出品畫二百點に近く、岡、大下諸氏の批評あり、終つて大下氏の『製作の動機』と題する講話あり、今回出品畫のうち優秀なりしは、榎本、八木、鈴木、向郷、望月、後藤の諸氏なりし。

△山岳に興味を有する名古屋市の有志は、この碩愛山會を設立されたり、事務所は名古屋市東七本松なりといふ。

## 紹介

◎美の影第二號 前號に引つゞき風俗四葉、風景七葉、花卉四葉、動物六葉の精巧美麗なる寫真版を藏めたり、何れも實用を主として撮影せしものにして、技術者の虚榮的獨りよがりのものにあらず、従つて畫家の參考としても充分其價値を認め得べし(會費金五十錢、神田駿河臺西紅梅町彩雲會發行)

## 問に答ふ

■一 カツサン鉛筆臨本は佛文なりや二 佛文にて水彩畫油繪其他洋畫に關する良書ありや(C) 一 英佛兩様に記載あり二 日本橋通丸善書店に問合されよ 青梅及長野にて開きたる講習會の記事は『みづゑ』何號にありや二 會友は記名料のほか何等の出費なきや三 ワツシとは如何なることなりや四 森の茂みなどは色が汚れて困る、何色を用ひてよきにや(淺草間接讀者)◎一 一八、二十二、二十三にあり二 出費なし規定を精讀されよ三 畫面を洗ふこともワツシと言ひ、

色を廣く塗ることもワツシといふ、其場合によりて用法一定せず四 季節により、又、森の種類遠近等により一様にあらず、注意して研究し、展覽會等にて他人の作により學ふべし、但暗くして深く見ゆる處は、不透明色を避け、クリムツンレーキ、バアントシーナ等の透明色を用ひ見られよ■文房堂の割引券は何割引にや、且注文の時割引して送金してもよきにや(失敗生)◎一割引なれども品物によりては割引に應ぜざるものあり、されば一應照會を要すこと、知りたまへ■吾等畫會を設けて研究中なれど、諸先生の肉筆畫を見、また自分等の寫生畫の批評を受たし、如何にせばよろしきや(川添生)◎日本水彩畫會の會友となれば、規定に従ひそれ等の便宜あるべし■糊いらず水貼棒と、普通の畫板と何れが便利にや、また前者は膨脹して描きにくし(鐵血)◎一枚の繪をかく時は手數かゝらぬ爲め前者の方が便利なり、旅行等にて澤山の繪をかく時は、後者の兩面に澤山水として置く方が便利なり、又、前者と雖